

## 「三重県企業庁の経営に関する懇談会」 開催結果（概要）

1 日 時 平成25年1月18日（金） 13：30～16：00

2 場 所 企業庁 南勢水道事務所

### 3 出席者

（1）懇談会構成員（50音順、敬称略）

- ・伊藤 恵子（伊藤印刷株式会社 専務取締役）
- ・杉浦 礼子（高田短期大学オフィス人材育成学科 准教授）
- ・田中 正美（東ソー株式会社四日市事業所 総務部 総務課長）
- ・菱田 幸子（菱田建材株式会社 取締役）
- ・堀川 勉良（井村屋株式会社 技術・設備環境部 部長）
- ・南川 則之（鳥羽市 水道課長）

（2）事務局

企業庁長、副庁長、次長、電気事業対策総括監、危機・事業管理監兼RDF発電監、企業総務課長、財務管理課長、水道事業課長、工業用水道事業課長、電気事業課長、南勢水道事務所長、企業総務課企画G副課長兼企画員 他

### 4 内 容

（1）説明事項

- ・第2次中期経営計画の概要
- ・水道、工業用水道事業の実施状況
- ・電気事業の実施状況
- ・平成23年度の決算状況
- ・技術継承の取組（暗黙知の継承）
- ・企業庁「明日の夢づくり」プロジェクトの取組

（2）多気浄水場見学

（3）意見交換

### 5 主なご意見

- ・三重県は日本一のすばらしい水を持っている県なので、この質を落とさないように、水源の保全の問題も含めて取り組んで欲しい。
- ・トンネル崩落事故などで老朽化対策が問題となっているなか、全国的に注目されるような技術や取り組みを見い出すなど、守りだけでなく攻めの姿勢で取り組んで欲しい。
- ・コンビナートにとって、工業用水は血液であり、なくてはならない存在であるので、防災対策を更に進めて欲しい。
- ・工業用水の未利用水の問題について、工業用水はきれいな水であり、高度ろ過することで用途は更に広がるので、このことをもっとPRしていくべきである。
- ・技術的な暗黙知の継承については、企業庁内部だけでなく、委託先の業者への技術継承についても取り組んで欲しい。

- ・各市町は責任水量制に基づいて企業庁から水を買っている状況にあるが、水需要が減少しているため、責任水量制の見直しについて検討して欲しい。
- ・企業庁は多額の内部留保資金を積み立てているが、適正額について更に検討したうえで、ユーザーに還元する努力もすべきである。
- ・小水力発電事業への取り組みを考えているのであれば、工業用水道の施設をダウンサイジングするのではなく、揚水発電を検討してみてもどうか。
- ・企業庁の経営の中で人件費の額がかなり大きくなっている。本庁の課の統合などにより、更に職員を削減していくような経営努力が必要ではないか。
- ・企業庁の職員に市町の状況がなかなか把握してもらえていないと感じているので、企業庁と市町との人事交流を進めて欲しい。
- ・三重県はごみの分別を徹底させてごみを減らしていくという動きをしているが、RDFの中から生ごみを取ったときRPFという考え方がある。RDFの事業をRPFに変えていくという考え方はないのか。